クレジット:
UTokyo Online Education 東大FFP 2020　栗田 佳代子
ライセンス:
利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示−非営利−改変禁止 ライセンスの下に提供されています。
http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO

CC BY NC ND

 CC BY-NC-ND

東京大学
フューチャーファカルティプログラム

DAY1 イントロダクション

東京大学 大学総合教育研究センター
栗田 佳代子　川崎一成

2020.4.15 or 16

 CC BY-NC-ND

目次

- はじめに
- 1分間研究紹介
- 高等教育の現状
- 東大FFPとは
- オンライン授業
- 事務連絡

はじめに

 CC BY-NC-ND

はじめに

東京大学フューチャーファカルティプログラムの
目的は後半で説明します

目的と到達目標

目的
オンライン授業に慣れその可能性を理解するとともに東大FFP受講の意義および目的を知り，ともに学ぶ仲間を知ることにより，受講の意図を明確に持つ

到達目標

- オンライン授業の方法を体験し慣れる
- 学ぶ仲間の名前を5人以上覚える
- 高等教育の現状について説明できる
- 東大FFPで学ぶ価値を見出し他者に説明できる

 CC BY-NC-ND

はじめに　～自己紹介～

- 栗田 佳代子
  - 所属：東京大学大学院教育学研究科
    & 大学総合教育研究センター
  - 専門：ファカルティ・ディベロップメント
    バックグラウンドは教育心理学、心理統計学
  - 経歴：東京大学教育学部-同大学院教育学研究科-
    学振PD-CMU-大学評価・学位授与機構-東京大学
  - 教育：東京大学フューチャーファカルティプログラム
    学びの場づくり
  - 研究：教員・大学院生のためのポートフォリオ作成支援
    ファカルティ・ディベロップメント（FD）および
    プレFDのプログラム開発・評価

はじめに

- Zoomの名前やお顔をみまわしてみましょう。クラスのなかで何人名前を知っている人がいますか？
  - 0人
  - 1人
  - 2人
  - 3人以上

はじめに　（グラウンドルール）

- 互いに学び合う協力的環境
  - 「さん」づけで呼びます
  - どんなことからでも学べる
  - 相手の話を関心をもってよく聴く
  - ３Ｋ
    - 敬意を持って、忌憚なく、建設的に
- オンラインならではのお約束
  - イヤフォン接続
  - 基本ミュート，話すときに外す
  - オーバーリアクション

はじめに　（この授業の進行）

- 基本同じURLです
- リアルタイム型（いまやってる）とオンデマンド型（自習）の組み合わせで進行します
- Zoomとsli.do, google drive, classroomなどいろいろなアプリケーションをを併用します

はじめに　（諸注意）

- Zoomを使ったことがありますか？
  - 音が途切れる，映像がかくかくしている
    →ビデオをオフに
    →できるだけ他のアプリケーションを閉じる
- この授業は録画しています
  →あとでGoogle Classroomから見られようにする予定
- 受講生による録画および画像のSNSなどにおける公開は認められていません
- ミーティングID取り扱注意

Zoom

1）手を挙げてください

2）手をすぐに挙げた人は「手を挙げる」という機能がどこにあるか，説明を

- チャットに書き込んでください

3）名前を変更してみましょう

- 本日パンを食べた人は１，ご飯を食べた人は２，いずれも食べてない人は３を名前の前につけてください

Sli.do

オンラインの質疑応答システムです

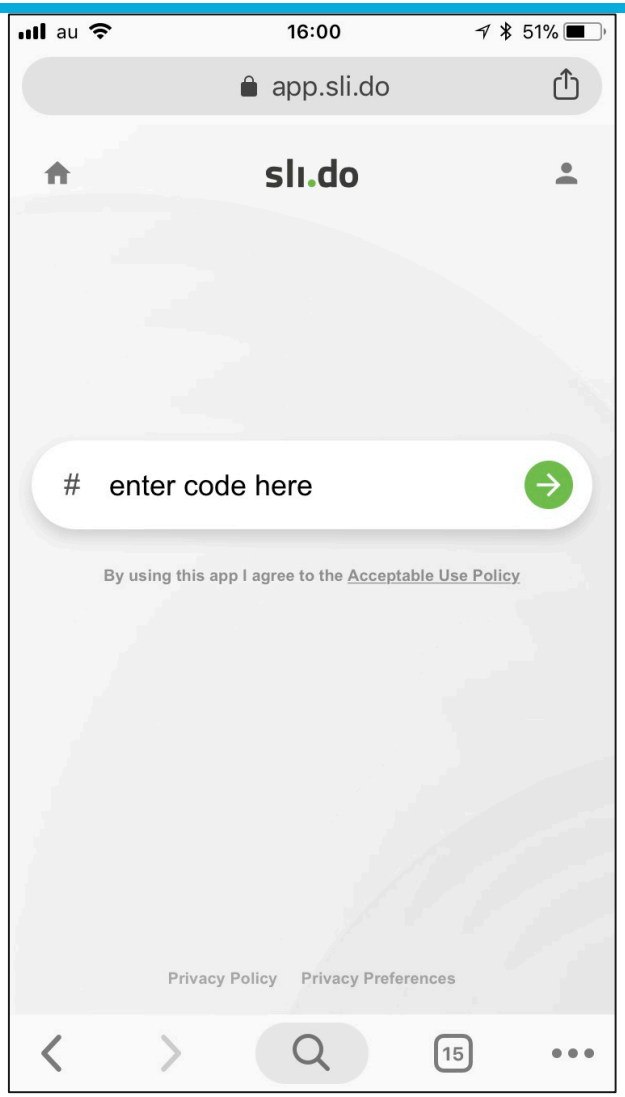
[使い方]

- 手持ちのスマホ等のブラウザに「sli.do」と入力
- #のエリアに「ffp1」と入力

[機能]

- 学習者からの質問
- 教授者からの発問

Slido
https://www.sli.do/jp



Sli.do

- 何を聞いてもいいです
- 誰かが答えてくれてもいいです

Google Classroom

- ECCSクラウドメールで入ってみてください
- 個人のgmailアドレスでもかまいません

 CC BY-NC-ND

はじめに　アイスブレイク（他己紹介）

- **目的**
  - 共に学ぶ仲間のことを知る
  - それぞれの受講動機を明確にする
  - グループワークに慣れる

- **目標**
  - 2名以上の受講生の名前を言える
  - 自分の受講動機を明確にもち、説明する
  - この教室を安心な場と感じることができる

 CC BY-NC-ND

はじめに　アイスブレイク（他己紹介）

- 受講動機を整理する（個人：1分）
  - どこかにメモをする
- お互いを知る①（ペア：1分30秒×2人）
  - 2人組になる
  - 相手の名前・所属・専門分野・受講動機を聴き、メモする
- お互いを知る②（グループ：1分30秒×4人）
  - ペア2組を合併して、4人グループを作る
  - ペアの相手の名前・所属・専門分野・受講動機を、新たなグループメンバーに紹介する

1分間研究紹介

目標

- 自己紹介がうまくいってもいかなくても、そこから学べることを体感する
- 3人の名前と専門領域を新しく覚える
- 教員としての自己紹介の意義を説明できる

自己紹介の意義

- 自己紹介の意義について考えましょう
  - なぜ授業初回で自己紹介をするのでしょうか？
  - 学生はどういう自己紹介を期待していると思いますか？

自己紹介 ～1分間研究紹介～

内容：自分の研究紹介

対象：初学者 (一般的な大学の学部1,2年生)
「専門用語は耳慣れない」

必須項目：挨拶
氏名
自分の研究の説明
学生への一言メッセージ

自分の研究の価値・おもしろさを
わかりやすく伝える

 CC BY-NC-ND

自己紹介する人へ

- あいうえお順で行います
- 一人2分とりますが，時間は1分間をできるだけ守りましょう
  - 1分経過時「1分経ちました」
  - 2分経過時「交代をしてください」
    と私から合図をします.

聴く人へ

- 1分の自己紹介が終わったら，あいうえお順の次の次の人から質問をしてあげてください.
- 他者の自己紹介から学べることは，メモをしていってください．後からsli.doで集めます.

今日の課題：研究紹介

- 自分で自己紹介を録画してアップロードしてください．（今日中）
- （明日から2日間）同じグループに入っている人の動画を視聴して，google form(1)にフィードバック
- （次回授業までに）自分でも自分の動画を確認し，良い点，改善しようと思った点，他者から学んだ点をgoogle form(2)で提出

高等教育の現状

 CC BY-NC-ND

日本の高等教育の現状　基本情報

高等教育＝大学、短期大学、高等専門学校
大学＝学位授与機関

- 東京大学　(2019年5月時点)
  - 学生数：学部生約14,000人　院生約12,900人
  - 教員数：約4,000人（助教以上，特任含）
- 日本全体　(2019年)
  - 大学数：786 (国立86,公立93,私立607)
  - 学生数：学部生約260万人，院生約25万人
  - 教員数：約18万8千人

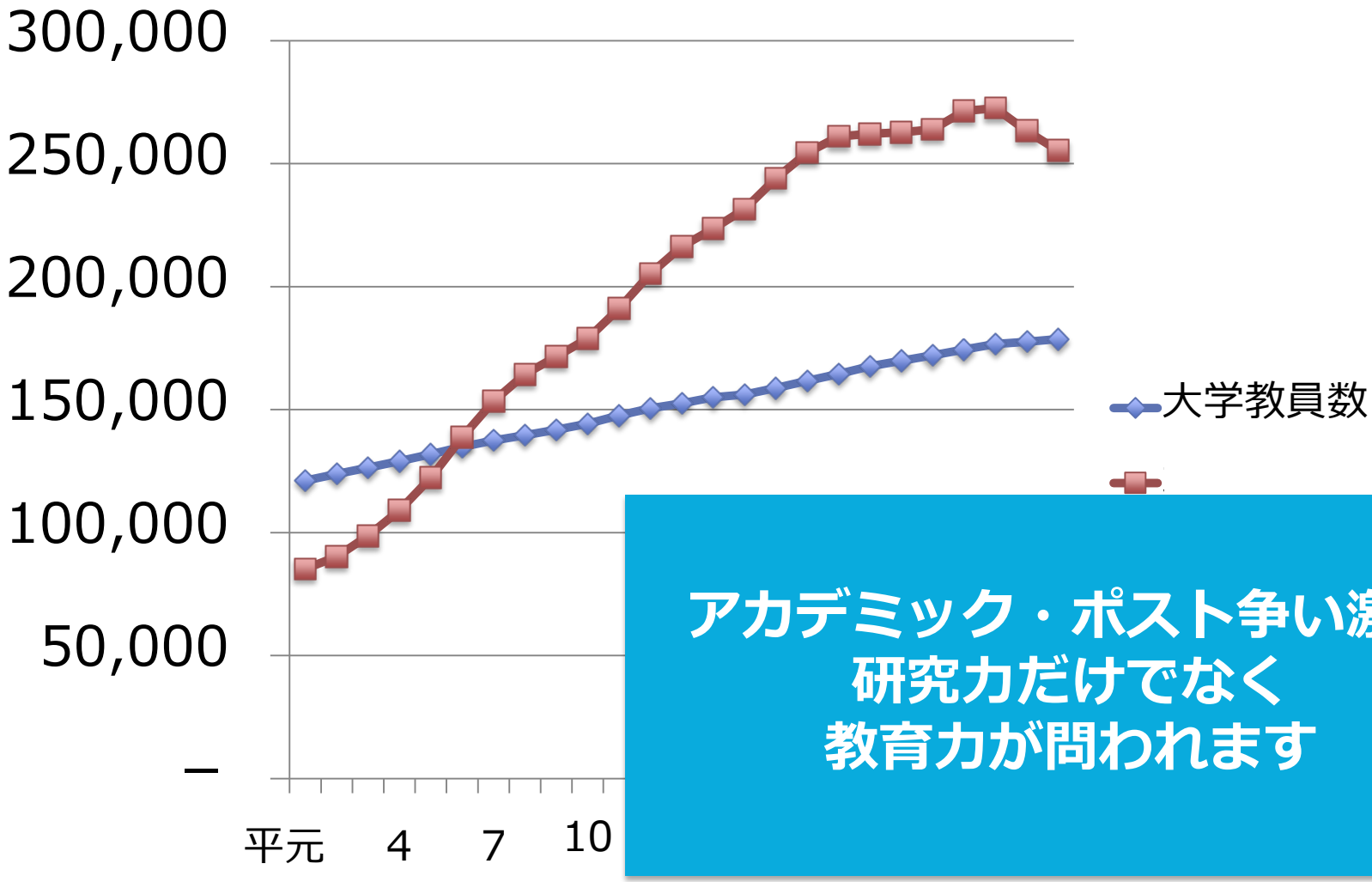
（東京大学ウェブサイトおよび文部科学省ウェブサイトより）

高等教育の現状　高等教育政策

- 大学院の量的整備について (1991年答申)
  - 1991年-2000年の間に大学院在籍者数倍増
- 認証評価制度の開始 (2004年導入)
  - 教育の質保証
- FDの義務化(2008年)
  - 組織的な教員の質向上の取り組み
- 大学教育の質的な転換(2014年答申)
  - アクティブ・ラーニング、高大接続・入試改革

 CC BY-NC-ND

高等教育の現状　＋大学院在籍者数



アカデミック・ポスト争い激化
研究力だけでなく
教育力が問われます

大学教員職の応募書類（JREC-IN）

JREC-IN Portal
for all researchers and research staff

JRECT-IN Portal, 2019年, 科学技術振興機構(JST)
https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop

 CC BY-NC-ND

大学教員職の応募書類（JREC-IN）

- 助教以上の大学教授職
  - 1465件
- うち模擬授業のキーワードヒット
  - 349件（約23.8%　前年比+3.7%）
- うちシラバスのキーワードヒット
  - 131件（約8.9%　前年比+4.5%）

https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop
(2020年4月15日時点)

大学教員職の応募書類（JREC-IN）

東京大学人間行動科学研究拠点
特任助教

国立大学

[機関の説明（

行う特任助教

[仕事内容（業

[応募方法（提出書類
方法／住所・メール
(1) 履歴書（写真貼
たもの。
(2) 業績リスト：論文は、査読の有無を必ず明記すること。researchmap からのフィードでJREC-INで作成したもの。

[選考内容（選考方法、採否の決定）、結果通知方法]
（第１次）書類審査
（第２次）面接・模擬授業　（旅費は応募者負担）
※第１次の書類審査の結果及び第２次審査の日時は後日メールにて連絡いたします
※採否の決定：選考結果はメールにて本人に直接通知します

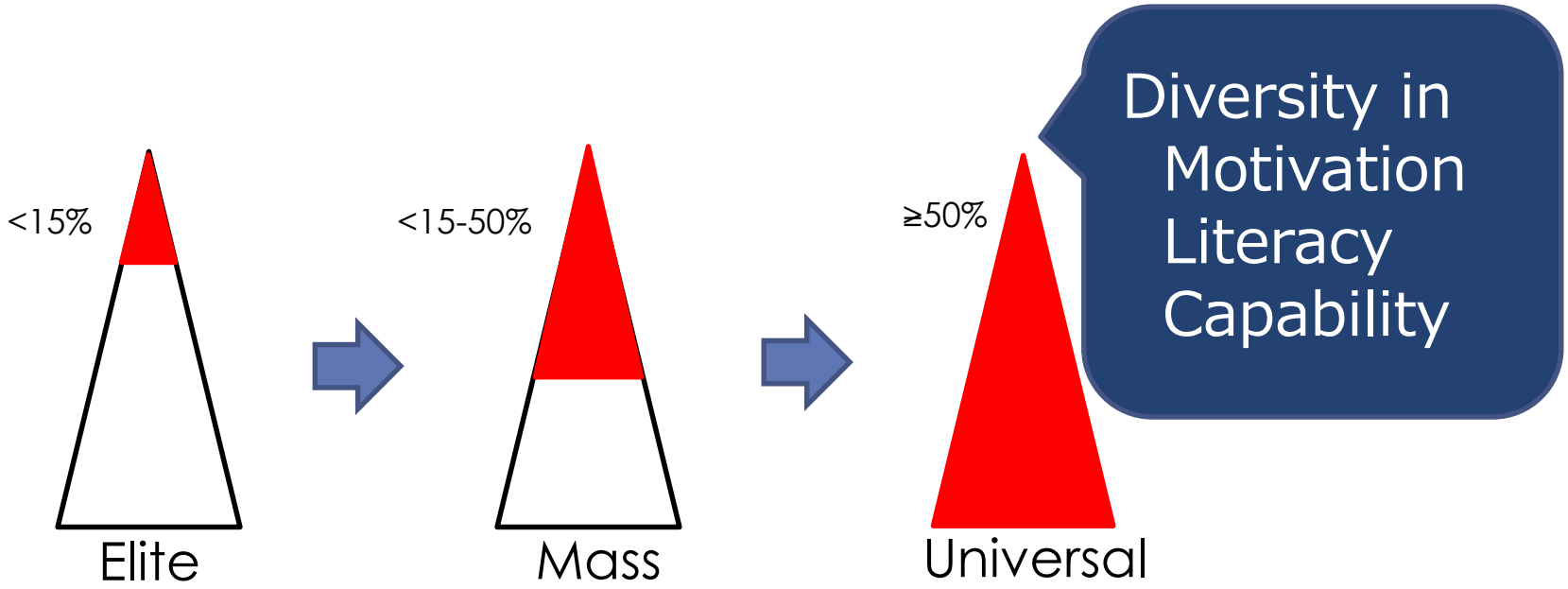
1名（特任助教）

[着任時期]
2017年12月～2018年4月頃

JRECT-IN Portal, 2017年, 科学技術振興機構(JST)
https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop

大学の変化

エリート段階→マス段階
→ユニバーサル段階 (Trow 1976)



高等教育の現状　高等教育政策

- 大学院の量的整備について (1991年答申)
  - 1991年-2000年の間に大学院在籍者数倍増
- 認証評価制度の開始 (2004年導入)
  - 教育の質保証
- FDの義務化(2008年)
  - 組織的な教員の質向上の取り組み
- 大学教育の質的な転換(2014年答申)
  - アクティブ・ラーニング、高大接続・入試改革

From “what teachers teach”
to “what learners learn”

 CC BY-NC-ND

高等教育の現状　背景

社会　経済停滞
　　超少子高齢・人口減少
　　生産年齢人口急減
　　グローバル化
　　技術革新
大学　進学率増加（全入時代）
　　学生の質の変化
　　国内外との競争

教育の転換期

東大FFPとは

東大FFPとは　目的

- 学生の学びを喚起する教員になるために必要な知識・スキルの修得

  教育者としても探究し続ける姿勢の獲得

- 多様な専門領域にわたるネットワーク構築

  多様な視点と豊かな人間関係の獲得

東京大学の”製造元責任“

 CC BY-NC-ND

東大FFPとは　特徴

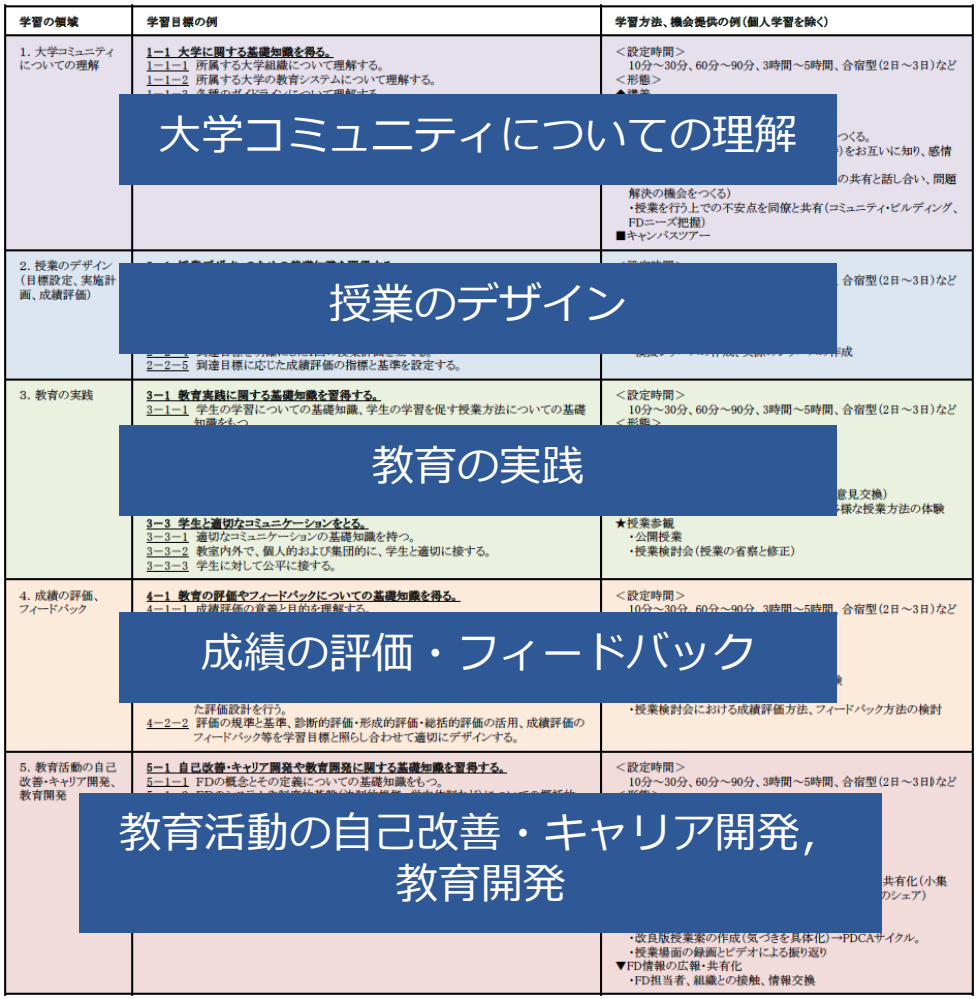
- 新任教員研修の枠組準拠
- アクティブ・ラーニングの手法を体験しながら学ぶ
- 実践重視
- 公式の履修証授与
- 修了生ネットワーク

東大FFPとは　構成

学びの振り返り
キャリアパス
モチベーション
高等教育の現状
コースデザイン
模擬授業
クラスデザイン
ファシリテーション
アクティブ・ラーニング
コース
目的
目標
クラス
目的
目標
内容
評価
内容
評価
評価

構成

新任教員研修のための基準枠組み



各項目の具体例が記載された詳細版：http://www.jaed.jp/download/

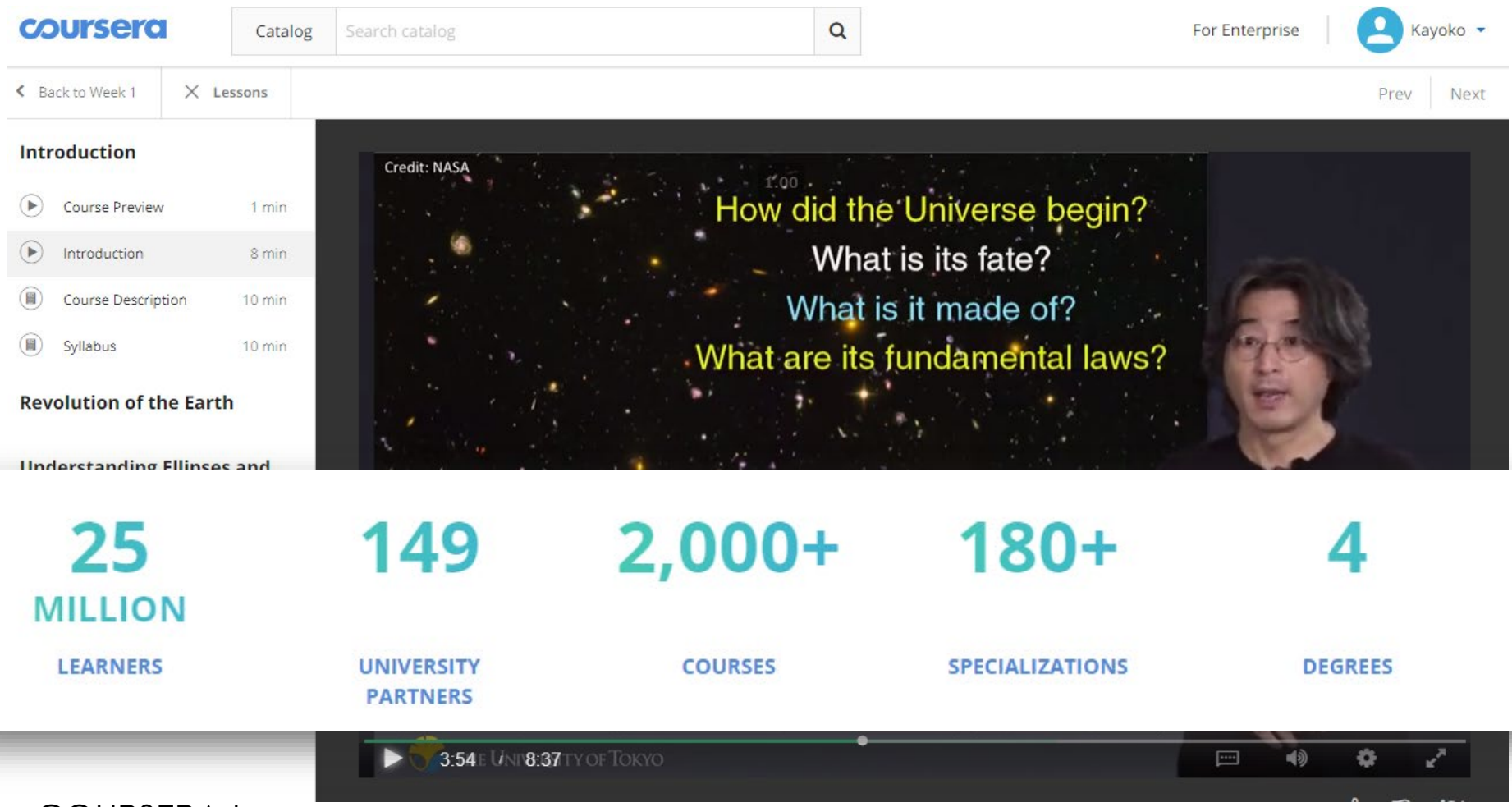
東大FFPの要素

- 高等教育の現状
- アクティブラーニング
- クラスデザイン
- コースデザイン
- モチベーション
- 研究紹介
- 模擬授業
- 評価
- キャリアパス
- 学びの振り返り

新任教員研修のための基準枠組，日本高等教育開発協会（JAED）
https://13ffdafc-dc11-42cd-87a7-1c630fbd9233.filesusr.com/ugd/0f803d_81106b703aa343ceacb872f7b8d223f7.pdf p.4

オンライン授業

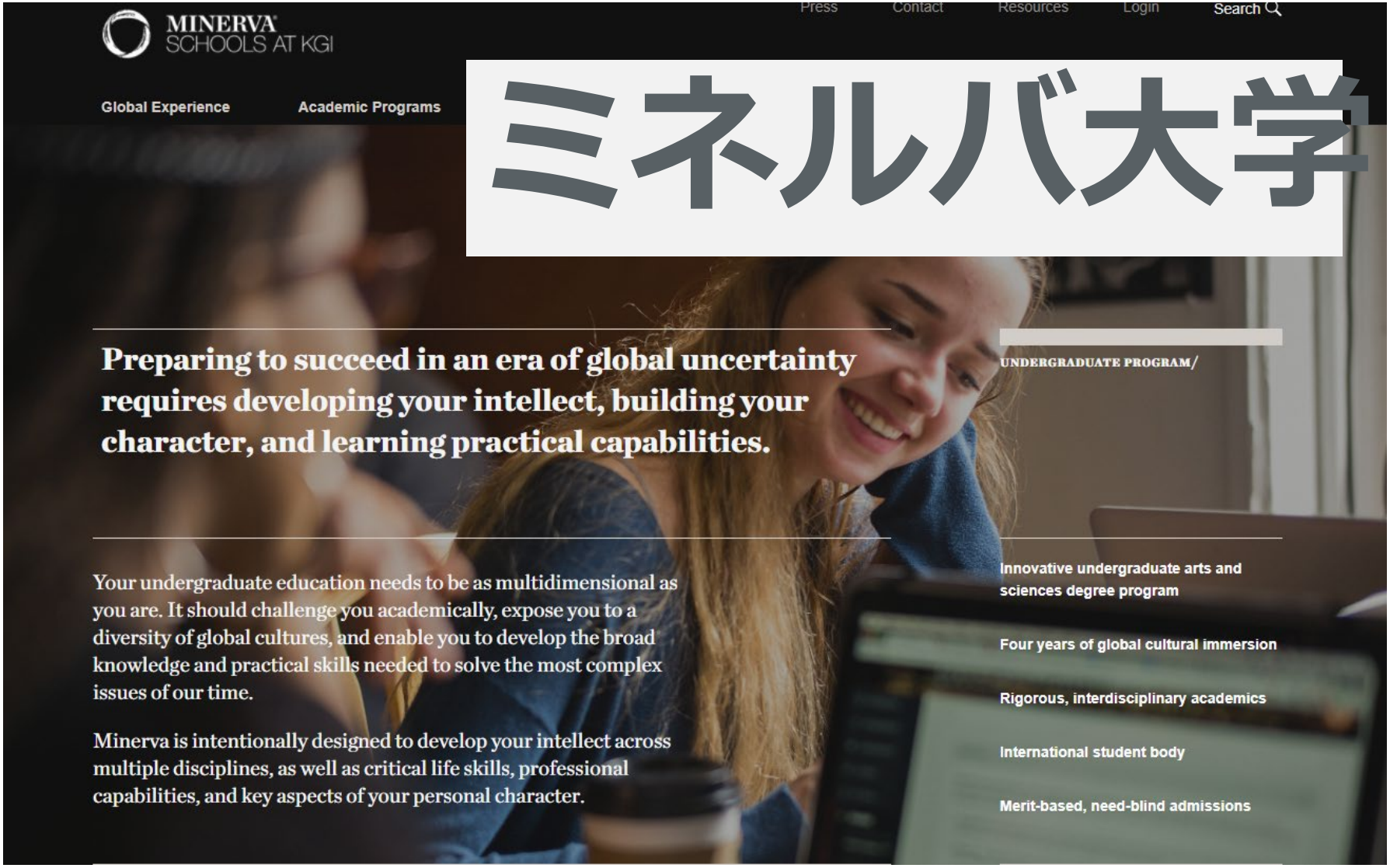
教育のオンライン化の波



COURSERA Inc.
https://www.coursera.org/learn/big-bang/lecture/yBDa4/introduction

 CC BY-NC-ND

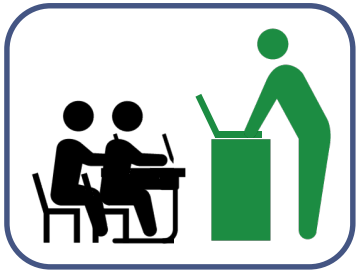
なぜ教育の変化が起こっているか？



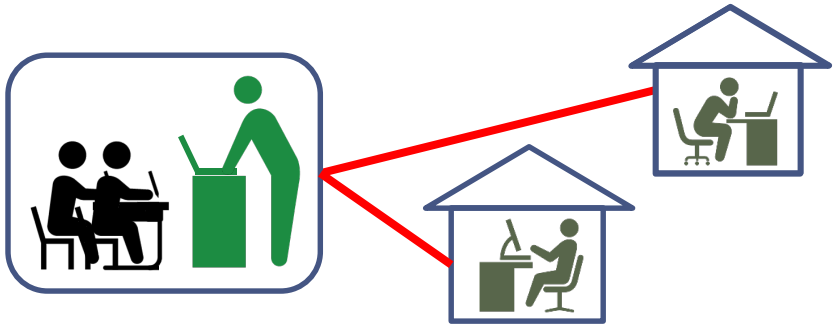
MINERVA Schools at KGI
https://www.minerva.kgi.edu/

オンライン授業の主な形態

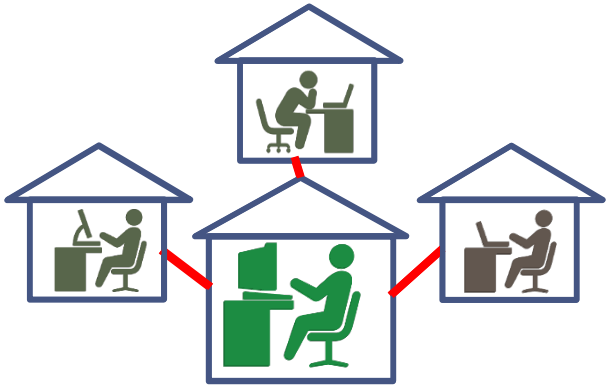
リアルタイム（対面）：従来の授業



リアルタイム（対面+オンライン）
：教室+Web会議システム等で授業



リアルタイム（オンライン）
：Web会議システム等で授業



オンデマンド（オンライン）
：学習システム等で学生が各自学習

©HUMAN PICTOGRAM2.0

リアルタイム（対面+オンライン）

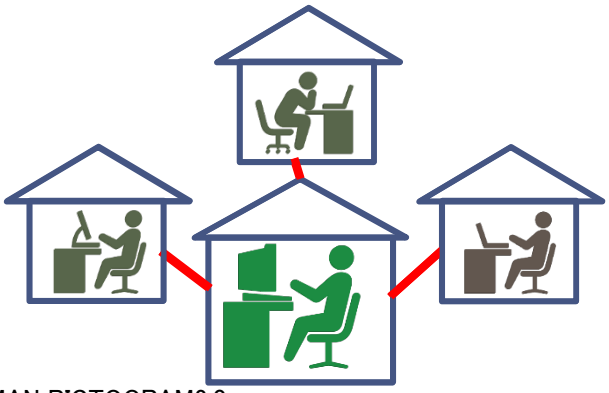
- 教室で授業して、Web会議システムなどで配信
- TA など補助者を1人つけるのがおすすめ
  - 教室とオンラインの橋渡し、オンラインのトラブル対応
- オンライン授業（メディア授業）としての要件:
  - 教員と学生が、互いに映像・音声等によるやりとりを行う
  - 学生の教員に対する質問の機会を確保する（Web会議システムならばチャットを活用可能）

メディア授業 参考情報
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/__icsFiles/afieldfile/2018/09/10/1409011_6.pdf

©HUMAN PICTOGRAM2.0

リアルタイム（オンライン）

- 全員がWeb会議システムなどでつながる
- オンライン授業（メディア授業）としての要件:
  - 教員と学生が、互いに映像・音声等によるやりとりを行う
  - 学生の教員に対する質問の機会を確保する（Web会議システムであればチャットを活用可能）



©HUMAN PICTOGRAM2.0

オンデマンド（オンライン）

©HUMAN PICTOGRAM2.0

- 学習管理システムなどで
教員が用意した教材をもとに学生が個別に学習
  - OCWやMOOCなどの既存の講義動画を視聴＋課題提出・掲示板での質疑応答
  - Zoomで行ったリアルタイム授業の録画を後から視聴＋課題提出・掲示板での質疑応答
- オンライン授業（メディア授業）としての要件:
  - 当該授業に関する学生の意見交換の機会の確保が必要
  - 設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うことが必要
    - 毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面する
    - **又は**、当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用する（Web掲示板の活用、ITC-LMS）

まとめ

目的と到達目標

目的
オンライン授業に慣れその可能性を理解するとともに東大FFP受講の意義および目的を知り，ともに学ぶ仲間を知ることにより，受講の意図を明確に持つ

到達目標

- オンライン授業の方法を体験し慣れる
- 学ぶ仲間の名前を5人以上覚える
- 高等教育の現状について説明できる
- 東大FFPで学ぶ価値を見出し他者に説明できる

デザインについて

- “授業初回仕様”「互いを知る」から構成
- 体験ベース
- 問いかけ（Closed Question)
  - ClosedからOpenへ
- 他己紹介
  - まずは二人組から慣らす
  - Input-Output

ふりかえり

- 本日もっとも学んだことは何ですか？

今日の課題 1：研究紹介

- 自分で自己紹介を録画してアップロードしてください．（今日中）
- （明日から2日間）同じグループに入っている人の動画を視聴して，google form(1)にフィードバック
- （次回授業までに）自分でも自分の動画を確認し，良い点，改善しようと思った点，他者から学んだ点をgoogle form(2)で提出

今日の課題 2： 動画視聴

- 下記動画を視聴してください
  https://www.utokyofd.com/?mov=kn-16
  https://www.utokyofd.com/?mov=kn-17
- 上記動画をふまえて、次スライドにある「授業に問題を抱える教授」に学生のモチベーションという観点からアドバイスを一つ以上考えてきてください。
- このとき、予期・価値・環境のどの観点からのアドバイスかを明らかにしておくこと。

 CC BY-NC-ND

統計学はやっぱり嫌い？

社会学部の1年生に「統計学の基礎」を初めて教えることになりました。初回のガイダンスでは、数々の多変量解析や統計量の推定方法など、最新の情報も含めて学生に披露したのですが、魅力はほとんど伝わらなかったようです。

初回のガイダンスには100人ほど出席していたのに、登録はその3分の1でした。今日が2回目でしたが、授業にくる学生も資料配布後は次々机に伏して寝てしまいました。

学生のほとんどはやる気がないようです。やはり文系学生は興味がないのでしょうか。

参考文献

- バーバラ・グロス・デイビス著　香取草乃助監訳 (2002)「 I−3準備　授業第1日目」, p.25-34 (『授業の道具箱』, 東海大学出版会)
- Curzan, A. & Damour, L. (2000) Chap. 2 The First Day of the Team, pp.11-28, (First Day to Final Grade A graduate student's guide to teaching, The University of Michigan Press)
- King, A. (1993). From sage on the stage to guide on the side. *College teaching*,*41*(1), 30-35.
- 栗田佳代子・日本教育研究イノベーションセンター編（2017）『インタラクティブ・ティーチング』河合出版
- MaKeache, W. J. (2002) Chap.3 Meeting a Class for the First Time, pp.21-28, (Teaching Tips 11th Ed., Houghton Mifflin)
- 文部科学省 (2019) 学校基本調査 http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm
- OECD (2018) Country Note (Education at a glance 2018) https://www.oecd.emb-japan.go.jp/files/000398873.pdf
- 佐藤浩章編（2010）『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部
- 成長するティップス先生ver.1.2 授業の基本 http://www.cshe.Nagoya-u.ac.jp/tips/basics/firstclass/index.html
- Trow, M. (1973). Problems in the transition from elite to mass higher education.
- 東大FDウェブサイト　http://www.utokyofd.com/
- JREC-INポータルサイト https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop